



ハエは、どうしてくさい^{もの}物にたかるの

よく^み見られるハエ

家で目につくのは、イエバエ、キンバエ、クロバエ、ニクバエなどです。これらのハエは、なめる口をもっています。幼虫^{ようちゅう}は、便所^{べんじょ}やごみ^{ごみ}ため、くさった野菜^{やさい}、動物^{どうぶつ}のふん^しや、死^しがないなど、種類^{しゅるい}によって、決^きまったもの^{もの}を食^たべて育^{そだ}ちます。キンバエは、魚屋^{さかなや}さんがす^さてた魚^{さかな}のごみ^{ごみ}によくたかかります。ニクバエは、動物^{どうぶつ}のふん^{ふん}に多^{おほ}く集^{あつ}まります。これらのくさい^{もの}物が、ハエの幼虫^{ようちゅう}の食^たべ物^{もの}にもなりますから、どうしてもハエがたかかります。

バナナなどの果物^{くだもの}が好^すきなハエは、ショウジョウバエです。熟^{じゅく}しすぎてくさり^{くさり}かけたとき、とくによく集^{あつ}まります。赤^{あか}い目^めをした小^こさいハエで、遺^い伝^{でん}の研^{けん}究^{きゅう}によく使^{つか}われます。

ハエの^{しゅるい}種類

ハエは、大^{たい}変^{へん}種^{しゅるい}類^{れい}の多^{おほ}いこ^こん虫^{ちゅう}です。ほかに、食^たべ物^{もの}別^{べつ}に、し^しょうかい^{かい}しまし^しょう。血^ちをす^すうハエ

ウシやウマの血^ちを吸^すうサシバエ、アフリカに多^{おほ}くいて、人^{ひと}もさ^さすツエツエバエなどは、さ^くす口^{くち}をもち、血^ちを吸^すいます。

農^{のう}作^{さく}物^{ぶつ}を食^くいあ^あらすハエ

キモグリバエ、ハモグリバエ、ダイコンバエ、タネバエ、ビートバエなどは、農^{のう}作^{さく}物^{ぶつ}を食^くいあ^あらす^{がいちゅう}害虫^{ちゅう}です。

寄^き生^{せい}するハエ

ヤドリバエは、ハチなどの幼虫^{ようちゅう}の体^{からだ}に、卵^{たまご}を産^うみつけます。かえった幼虫^{ようちゅう}は、卵^{たまご}を産^うみつけられた幼虫^{ようちゅう}の体^{からだ}を食^たべて育^{そだ}ちます。寄^き生^{せい}性^{せい}の種^{しゅるい}類^{れい}です。(監^{かん}修^{しゅう}・中^{ちゅう}山^{さん} 周^{しゅう}平^{へい})

